

新盆（初盆）講習会

一、お盆の意味 　　よくある質問

①なぜ「お盆」と呼ぶのか ※①ページ参照

- ・ウランバンナ…さかさまに吊り下げられた苦しみ　↓孟蘭盆（お盆）
- ・地獄に仏…先祖供養によって苦しむ霊を守る　↓大乘仏教の目的
- ・正見（しょうけん）…見えないもの（真実、真理）を見る

②七月盆、八月盆（月おくれ盆）はどう違うのか ※⑨ページ参照

- ・明治時代に旧暦から新暦になったことが理由。
- ・地域や家庭の事情で決める。家族みんなで行うことが大事。

③「迎え火」「精霊棚」「送り火」の意味は？ ※⑤ページ参照

- ・先祖さまの道しるべ…思いやりの気持ち
- ・迎え火は十三日の夕方、送り火は十五日～十六日
- ・盆踊りも精霊を迎える儀式　喜びの表現

④新盆（初盆）を手厚く行うのはなぜか ※⑫ページ参照

- ・少し前まで家族の一員だった先祖さまへの追慕の念の強さか
- ・お飾りや供物は盛大にする。

・親しかった知人が提灯や灯籠を送る風習もある。

二、先祖さまの迎え方

① 精霊棚の飾り方 ※③ページ参照

- ・年に一度、遠いところから帰ってくる先祖さまのための部屋
- ・VIPルーム（精霊棚）とご馳走（霊供膳）を準備する。
- ・キュウリの馬とナスの牛にも先祖さまへの思いが込められている。
- ・地域で飾り方が違う。大切なことは手厚く迎える心。

※別紙イラスト資料、写真参照

② 先祖さまとの三泊四日 ※⑦ページ参照

- ・新盆（初盆）でも迎え火は十三日の夕方
- ・霊供膳は精進料理（二汁三菜）。メニューは地域によっていろいろ。
- ・故人の好物など通常より多くする。

- ・お盆の期間中に家族そろって墓参りを **きずなの再確認**
- ・遅くとも十六日の朝には送り火を

③ 新盆（初盆）は手厚く供養

- ・住職に棚経（屋敷施食法要）に来てもらう。家族で参加できるようにする。 （七月は七日、八日午後。八月は十一日、十二日から選ぶ。）

・山門大施食会（七月二十九日）に参加し塔婆供養と供物加持を行う。

施食会（餓鬼供養）は自分の幸せと先祖供養につながる大法

※詳しくは七月初旬に郵送される案内文書を確認

四、お盆の心構え

故人に対して感謝と尊敬の心をもって、丁寧にお給仕しましょう。お給仕する親の姿を子どもが見て、先祖を大切にする心、親を大切に する心が自然に養われます。

親孝行は人間文化の基本です。温かい愛情教育の一つとして、家族 全員でお給仕できるといいですね。

お盆は、ややもすると忙しい忙しいで命の問題を深く見つめる心のゆとりを失いがちな私たちが、先祖さまとの命のつながりを通して、自分自身のいただいている命の尊さに気づき、その尊い命をどう使わせていただくべきか、命をどう磨いていくべきかを考える期間です。

亡き方へのご供養は形に見える世界から形に見えない世界に向かつての働きかけですから、時には迷いがちになります。そんな時は、最も大切な人を遺して逝かなければならない自分を想像してみてください。

苦しんでいるかもしれない先祖さまに対して、真心を込めて、お茶やお水、お花やお線香をお供えすることはとても尊いことです。そして、何よりも、私たちの日々の生き方に繋がります。亡き人が

安心していただけるような生き方ができるように、また自分自身の幸せのためにも、心を含めてお盆を迎えましょう。

谷田山東光寺小住 石田泰光